

## 臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 腎の細小動脈の硬化性病変に対する加齢、高血圧の影響の形態学的検討

### 【研究の背景および目的】

腎の細小動脈における硬化性病変により、腎糸球体への血流が変化し腎機能低下の原因となる腎硬化症を引き起こすことが知られています。この腎硬化症は慢性腎不全による血液透析の大きな原因のひとつとなっています。この硬化性病変は冠動脈や大動脈における動脈硬化と非常に異なった成り立ちであると考えられ、加齢や高血圧(特に様々な降圧薬治療)による影響が糸球体の輸入細動脈に病理形態学的な変化をもたらすと考えられます。

そこで、東邦大学医療センター大森病院総合診療科では、加齢や、高血圧(降圧薬も含め様々な因子)による腎の細小動脈の病理形態学的検討を行い臨床データとの関連を検討することを目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果は、腎硬化症による腎機能低下を減らし、透析導入患者を減らすことにつながります。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2010年～2018年までに東邦大学医療センター大森病院泌尿器科において、片腎の摘出手術を受けた症例で、術前に「病理診断のための組織の教育・研究目的に使用することに関する同意書」にサインを頂いた症例(約140例)を対象とします。

病理検査後に残った試料を用いて腎の標本を作製し、腎細小動脈の病理形態学的変化をスコア化、または狭窄度を測定し、診療録(カルテ)から抽出した術前臨床検査データとともに解析することにより、腎血流に影響を与える因子を調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

共同研究者のうち1名が、利益相反状態にありますが、その研究者は症例選択および採用データの統計処理に全く関与しないため研究結果には影響しないものと考えます。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

総合診療内科

職位・氏名 教授 瓜田純久

電話 03-3762-4151 内線 6515